

その先には何がある？

単元目標：①切り取られた写真の一部から、その残りを想像することで、視点を変えると見える世界が変わってくることを知り、実生活でもいろんな見方があることに気づかせる。
②ラオスで生活している人々になってみるつもりで、話を考え、共感し、同じ生きていることを実感する。

対象：中学生～

時間：45分

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (3分)	例として一枚の写真を四分割し、その一つを生徒に提示し、「残りには何が写っていると思う？」と問う。	生徒の意見はすべて黒板にあげるが、ここで、答え合わせはしない。	教師が取ったラオス写真5セット (一枚を3~4つに切り分けておく)
展開1 (8分)	○アイスブレイキングおよびグルーピング 「これからみなさんが持っている残りの写真を見つけましょう。質問は、『～は写ってますか？』『～はありますか』と手持ちの写真からは見えない部分を想像し、相手ペアに質問し、写真を完成させましょう。」	四ピースに切り分けられた写真をランダムに生徒ペアに配布する。 ペア活動で、仲間捜しをするように指示する。	
展開2 (15分)	「完成した写真と、お題を使い、そこに生きる人々のお話をつくってみましょう。」 お題 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">こうやって食べると美味しいよ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">遊んではいけません</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">私の仕事</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">思ったよりも美味しいよ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">楽しい時間</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">待つ人</div>	8グループ(3~4人)で、話を考える。 ① 付箋紙を使いアイデアをだす。 ② 黒板に掲示されたお題を自由に選び、お話を考える。自分たちでお題を考えても良い。 ☆8グループのうち3グループは同じ写真を使用し、話を作っているが	追加ラオス写真3セットを用意(アイスブレイキング用の写真だけでは足りないため。あえてアイスブレイキングの同じ写真を用意する)

本人たちにはそれは伝えない。
お題も自由に選べるため、重なる場合があるがそれもよしとする。



お題 大事な時間

みんなのお話かな

ラオスでは、黄色い服のおばあさんが、みんなにお金を配っています。賢い人に寄付をしているのです。だから、おばあさんは、みんなに尊敬されています。一番前の三人がお金を配り、うしろのこともたらは、食べ物配ります。

(大事な) 楽しい時間

みんなのお話かな

おじいさんとおばあさんは一緒に外でおやうのバサを食ってまふ人は愛あっているのて、この時間がとてもうれしくて楽しい時間です。

シェアリング

まとめ
(20分)

初めに各グループが作ったお話をシェアする。代表者が発表する。

グループ発表ごとに教師が実際にラオスでみた事実を伝える。

最初に行ったアイスブレイキングも振り返りをする。

「この時間の振り返りをしましょう。」

クラスメイトが作った話を聞くとときが一番盛り上がるので、和やかな雰囲気を残しつつ、教師の見た事実へと繋げる。

想像力を働かせたり、質問の仕方を変えてみることで、探したいことが見つけられたこと。ペアの意見にも耳を傾けながら、問題を解決したこと。自分だけの視点でなく、想像して仲間と練り合っって試行錯誤することができたことをシェアする。

静かな雰囲気の中自分の思いや気づき、考えなど言語化する。

